

1. 2025 年度活動計画

① スタディツアー事業と子供の英語教育ツアー

例年実施していた桜丘高校のスタディツアーは中止となるが、教員2名が8月に下見に来る計画となっている。それに代わって日本福祉大学付属高校のツアーの一部日程（マングローブ植林、Pagadpat 祭り、慰霊碑訪問、山間部で植林）を受け入れる。10月に他の学校のスタディツアーを受け入れる。子供の英語教育ツアーの宣伝を強化する。

② 日本 NGO 連携無償資金協力

3 年次となる「干ばつが常態化するボホール州における、雨水貯留タンクの建設による、安全な水の供給と衛生教育の体制づくり」を実施する。ボホールにて地域・学校に雨水を貯留・浄水して提供するプロジェクトを進める。新規の N 連プロジェクトを計画する。

③ イオン環境財団

「人と自然が共生する里山としてのマングローブ林の再生（第3年次）」を実施する。植林サイトは EB マガロナ群にある。行政、住民団体が積極的で、エコツーリズムによる地域振興に力を入れており、ここに NGO が加わることでさらに相乗効果を上げることができる。植林余地は 100ha あり、長期の支援が望める。リコージャパンの植林の一部もここで行う。

④ 地球環境基金

ボホールの Mabini 郡で観光振興と 3R 事業を同時に行う、少し贅沢なプロジェクト。巨大な鍾乳洞と美しいマングローブ林が売りである。観光がうまく進捗しそうであるが、郡に最終処分場がないため、3R 事業にアイデアが必要。

⑤ 緑の募金 1

緑の募金事業の3年目の植林事業が6月末で終了する。Tabao Baybay 村で植林を実施したが、苗はほぼ全滅である。サイトが外洋に面しており、高潮への各種対策が効果を発揮しなかった。

⑥ 緑の募金 2

単年度の事業。SDGs の考えを取り込んだ植林事業。2 回目のクラウドファンディングが成立せず、次回クラウドファンディングにそのまま持ち越しとなった。

⑦ パガパットフェスティバル

規模をコロナ前の規模に戻してパガパット祭りを7月に実施する。

⑧ 企業連携

8.1 ニチバン株式会社

「ニチバン巻心 ECO プロジェクト」を継続する。2019 年度に実施した社内研修の現地受け入れを再開する。

8.2 リコージャパン株式会社

5.5 万本のマングローブ植林の寄付をいただく予定である。8月スタート。

8.3 その他の企業

カーボンクレジットに関して、Climate Tech の Carbontribe Labs 社と連携
海水淡水化に関して、Waqua 社と連携。

⑨ 国内活動

ーサービスグラントによる広報事業の強化策について、パナソニックよりコンサルを受ける。今後、主に HP の改訂を行う予定。